なんでもインフォ 2013.11

発 行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１－23
E-mail　suzuki@showacd.co.jp
Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

地球温暖化について

■ はじめに

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が今年の9月にスウェーデンのストックホルムにて開催され、地球温暖化に関する報告書が6年ぶりに公表されました。この報告書によって、地球温暖化が深刻な状況であることが改めて分かりました。

そこで今月号では、同報告書の主要な結論（気象庁発表－速報版）について紹介します。

■ 観測事実



・気候システムの温暖化については疑う余地がなく、1880年～2012年において、世界平均地上気温は 0.85℃上昇している。

・1971 年～2010 年において、水深 700m 以上の海洋の上部で水温が上昇していることは、ほぼ確実である。

・1992 年～2005 年において、3000m 以深の海洋深層で水温が上昇している可能性が高い。

・過去 20 年にわたり、グリーンランド及び南極の氷床の質量は減少しており、氷河はほぼ世界中で縮小し続けている。また北極の海氷面積及び北半球の春季の積雪面積は減少し続けている。

・大気中の二酸化炭素（CO_2）、メタン（CH_4）、一酸化二窒素（N_2O）濃度は、過去 80 万年間で前例のない水準まで増加している。CO_2 濃度は、化石燃料による排出や土地利用の変化により、工業化以前より 40%増加している。

・海洋は人為起源の二酸化炭素の約 30%を吸収したことにより海洋酸性化を引き起こしており、海水の pH は工業化以降 0.1 低下している。

■ 温暖化の要因

・人類の活動が 20 世紀半ば以降に観測された温暖化の主要因であった可能性が極めて高い。

・1750 年以降の二酸化炭素の大気中濃度の増加は、地球のエネルギー収支の不均衡に最も寄与している。

■ 将来予測

・1986 年～2005 年を基準とした場合の、2016 年～2035 年の世界平均地上気温の変化は、0.3℃～0.7℃上昇する可能性が高い。

・世界平均地上気温の上昇に伴って、ほとんどの陸上で極端に高温となる頻度が増加することは、ほぼ確実である。

・中緯度の大陸のほとんどと、湿潤な熱帯域において、今世紀末までに極端な降雨が、強く頻繁に発生する可能性が非常に高い。

・21 世紀を通して、世界全体で海洋は昇温し続け、熱は海面から深海に広がり、海洋循環に影響する。

・21 世紀の間、世界平均地上気温の上昇とともに、北極の海氷域が小さく薄くなり続け、北半球の春季の積雪面積が小さくなる可能性が高い。

・二酸化炭素の累積排出量と世界平均地上気温の上昇量は、ほぼ比例関係にある。

・海洋へのさらなる炭素蓄積の結果、海洋酸性化が進行する。

■ おわりに

今年の夏から秋にかけて、日本の多くの地域で『これまでに経験したことのない豪雨』によって、甚大な被害が発生しました。震災以降、私たちの関心は防災やエネルギー問題に向いておりましたが、今回の豪雨災害によって、地球温暖化を思い浮かべた人が多かったのではないかと思います。

地球温暖化を食い止めるために世界各国で様々な取り組みが行われておりますが、私たちひとりひとりの努力も大切です。政府が推奨するウォームビズが、11 月 1 日からスタートしております。冬の節電は夏の対策よりも省エネ効果や CO_2 排出効果が高いと言われております。今年のウォームビズは、従来の方法にちょっとしたアイデアをプラスすることで、より快適に楽しく、温かく過ごす『ウォームビズ・プラス・ワン』がテーマとなっておりますので、皆さんでぜひチャレンジしてみてください。



株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は、道路・河川・橋梁等の計画・設計、GIS、IT ソリューション等の業務を行っております。

”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください。

配布者

作成者：コンサルタント事業部
高橋　昌樹